

バイオマス産業都市の二次選定地域

**平成26年3月28日
バイオマス産業都市関係府省連絡会議**

バイオマス産業都市の二次募集の状況

7府省共同でバイオマス産業都市の二次募集を平成25年11月下旬から実施し(約1ヶ月)、8地域が応募。
1月24日のバイオマス産業都市関係府省連絡会議で整理を行い、2月7日にバイオマス産業都市選定委員会を
開催。

バイオマス産業都市選定の流れ

バイオマス産業都市構想の募集 (H25.11.29 ~ H26.1.8)

作成主体: 市町村(単独、複数)・企業共同体等
構想の内容: 目指すべき将来像・目標、事業化プロジェクト、地域波及効果、実施体制等



バイオマス産業都市関係府省連絡会議 (H26.1.24)



バイオマス産業都市選定委員会による審査・ヒアリング・推薦案の決定 (H26.2.7)

メンバー: バイオマス、環境、エネルギー、投資・金融等の専門家で構成
評価の視点: 先導性、実現可能性、地域波及効果、実施体制



7府省によるバイオマス産業都市の選定



バイオマス産業都市構想の実行・具体化

関係府省による連携支援(事業化プロジェクト)
関係府省の施策の活用には、別途当該府省の審査・採択が必要。

バイオマス産業都市選定委員会のメンバー

かねや としのぶ
金谷 年展 東京工業大学ソリューション研究機構特任教授
(バイオマスを含む環境・エネルギー政策の専門家)

たけがはら けいすけ
竹ヶ原 啓介 (株)日本政策投資銀行環境・CSR部長
(再生可能エネルギー事業のファイナンスの専門家)

つかもと おさむ
塚本 修 東京理科大学特命教授
(バイオマス技術と環境・エネルギー政策の専門家)

なかむら かずお
中村 一夫 (財)京都高度技術研究所バイオマスエネルギー
研究部長
(廃棄物系バイオマスの技術・利用の専門家)

のむら みつお
野村 充伸 地方共同法人日本下水道事業団理事
(下水汚泥の技術・バイオマス利用の専門家)

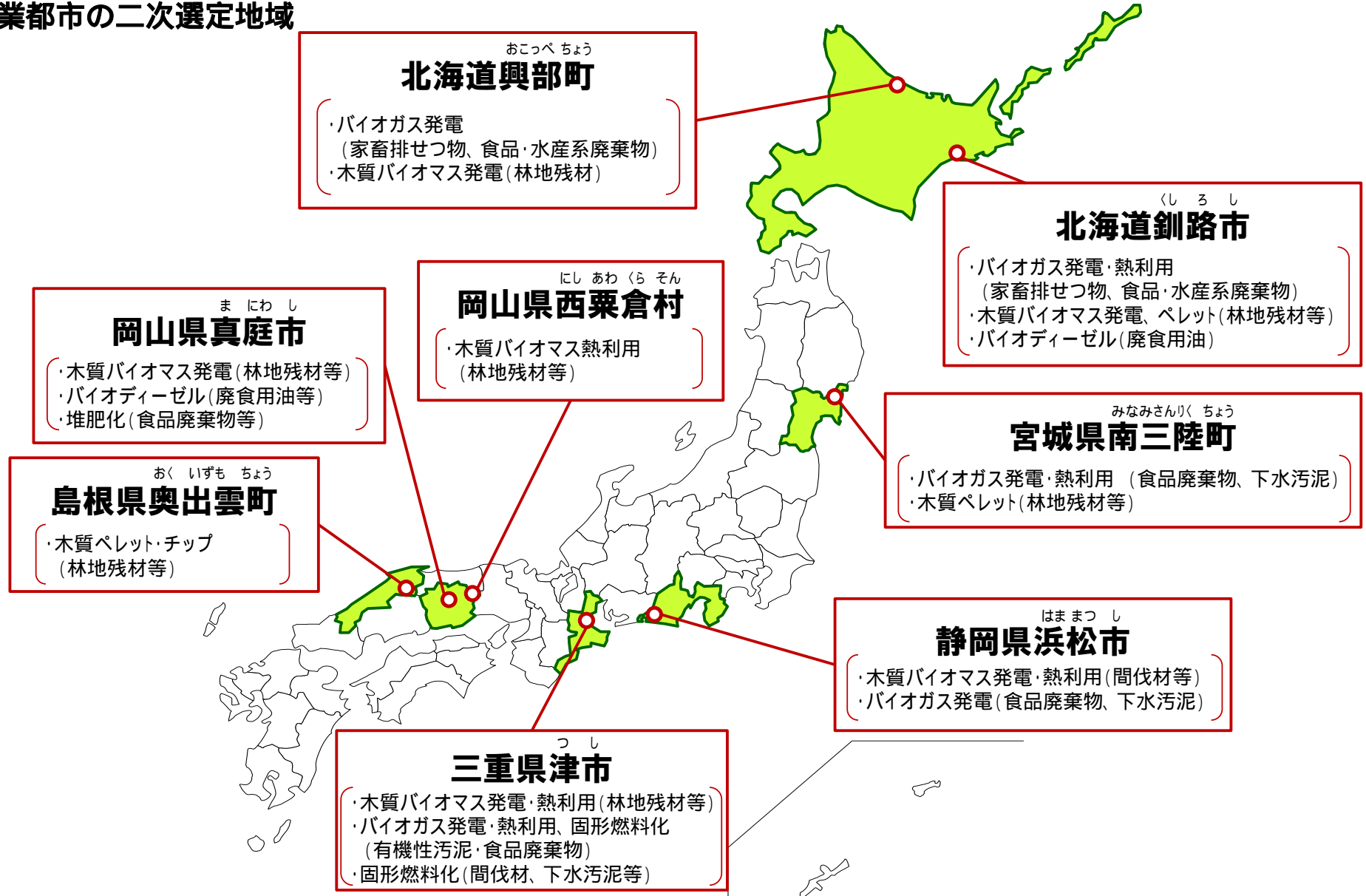
よこやま しんや
横山 伸也 鳥取環境大学環境学部教授
(バイオマス技術・政策の専門家)

バイオマス産業都市選定委員会の審査結果

2月7日の選定委員会において、4つの視点(先導性、実現可能性、地域波及効果、実施体制)を中心に各地域からヒアリング・審査を行い、応募8地域の全てを推薦案として決定。

選定委員会で出された意見等は、選定結果と併せて公表し、事業化プロジェクトの具体化の参考として活用。

バイオマス産業都市の二次選定地域



バイオマス産業都市選定委員会の審査結果

【選定地域】

地域	構想の概要	主な意見等
<p style="text-align: center;">くしろし 北海道釧路市</p> <p style="font-size: 2em;">〔 人口 18.1万人 面積 13.6万ha 〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業・林業・水産業の1次産業に加え、製造業や港湾、都市機能をコンパクトに備えた地域特性を活かし、家畜排せつ物、食品加工残さ・水産加工残さ、林地残材・製材工場等残材などの地域バイオマスの総動員・多段階（カスケード）利用による循環型社会を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北北海道の中核・拠点都市の特徴を活かし、豊富かつ多様なバイオマスを活用する総合的なまちづくりのモデルとなり得る。 ・ バイオガス事業について、食品工場のボイラー燃料用等に直接ガスを供給する取組は先導性がある。今後、コストの一層の低減等の課題を克服し持続性のある取組に期待。 ・ バイオマスの利活用による農業ブランドのパワーアップを図り、新しいビジネスモデルを生み出す取組に期待。
<p style="text-align: center;">おこっぺちよう 北海道興部町</p> <p style="font-size: 2em;">〔 人口 0.4万人 面積 3.6万ha 〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家畜排せつ物を中心としたバイオガス産業クラスターの構築により、悪臭の低減・水環境の改善など地域環境との調和と新たな産業の創出を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 酪農と漁業の町の地域資源を適切に把握し、過去の実証結果を踏まえるなど地に足の着いた堅実な構想であり、類似地域にとってモデルとなり得る。 ・ バイオマスプラントと食品加工を組み合わせた観光、教育、交流促進等の6次産業化の展開に期待。

地域	構想の概要	主な意見等
<p style="text-align: center;"><small>みなみさんりくちょう</small> 宮城県南三陸町</p> <p style="font-size: 2em;">〔 人口 1.5万人 面積 1.6万ha 〕</p>	<p>・震災による甚大な被害の中で、「バイオガス事業」と「木質ペレット事業」を軸に、森里海街の資源ポテンシャルを活かした産業振興と災害に強いまちづくりによる創造的復興を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の教訓、復興、インフラ更新など多面的な検討により組み立てられた構想であり、被災地域はもとより、全国的なモデルとなり得る。 ・地域の林地残材等を活用した木質バイオマス事業でペレット製造を行い、災害時にも自己完結した地域循環型エネルギーを供給できる体制整備に期待するとともに、廃食用油からBDFを製造して車両に利用する等、さらなる災害に強いまちづくりの強化に期待。 ・地域に新たな産業を生み出すような展開に期待。
<p style="text-align: center;"><small>はままつし</small> 静岡県浜松市</p> <p style="font-size: 2em;">〔 人口 81.2万人 面積 15.6万ha 〕</p>	<p>・広大な市域を対象に、3つのバイオマス（未利用木材、生ごみ、下水汚泥）と4つの事業化プロジェクトを核とした経済的な循環利活用モデルを構築することで、バイオマスのエネルギー利用と関連産業の活性化を両輪とした「エネルギーに対する不安のない強靱な社会」の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既に一定レベルでバイオマス資源を活用している現実を踏まえ、都市と中山間地の課題をあわせ持つ地域の特徴を活かした汎用性のある構想となっており全国のモデルとなり得る。 ・行政課題を民間活力によるエネルギー活用により解消する取組は全国的なモデルとなり得る。

地域	構想の概要	主な意見等
<p>三重県津市</p> <p>（人口 28.6万人 面積 7.1万ha）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 域内の3つのゾーン（都市、農住、自然環境共生）から発生する未利用・廃棄物系バイオマス（木質系、食品廃棄物、下水汚泥）と4つの事業化プロジェクトを組み合わせ、クリーンエネルギー産業と雇用の創出を図り、環境にやさしく住みよいまちを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の利用状態と矛盾のない形で未利用資源の活用にポイントを絞った合理的なアプローチは他の地域のモデルとなり得る。 ・ 木質バイオマス発電が核となり地域内の間伐材や剪定枝等の資源がきちんと循環することが重要であり、当面は輸入バイオマスに頼るにせよ、将来的な地域材の利用活用の増大に向けて、行政と民間が一体となった取組が必要。 ・ 市が主体となって各プロジェクトを融合し、地域の特色を活かしたバイオマス産業都市を構築していくことに期待。
<p>島根県奥出雲町</p> <p>（人口 1.4万人 面積 3.7万ha）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林地残材率が約4割という課題に対し、「森林の適正伐採」と「伐採物の有効利用率の向上」の両立に向かう日本の中山間地の林業振興の見本として貢献できるまちづくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正伐採とそれを可能にする出口確保の問題に焦点を絞り検討された分、具体性を持っており、森林資源に恵まれた地域の具体的なモデルとなり得る方向性が示されている。今後、既に取り組を進めている木質以外のバイオマス利活用と融合させた産業都市の構築に期待。 ・ 木質バイオマスを炭化して製鉄に利用する取組は先導性があるが、事業化に向け、技術面での実現可能性や採算性に対してさらなる詳細検討が必要。

地域	構想の概要	主な意見等
<p style="text-align: center;">まにわし 岡山県真庭市</p> <p>〔人口 4.9万人 面積 8.3万ha〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然」、「連携」、「交流」、「循環」、「協働」の5つのキーワードを掲げ、木質バイオマスの活用を核として、豊富で多様なバイオマスのマテリアル・エネルギー利用、バイオマス産業観光・学習推進による地域ブランドの向上などを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長い検討の蓄積と実践に裏打ちされた総合的なバイオマス活用計画であり、全国のモデルにふさわしい構想内容。 ・豊富なバイオマス資源の多様な活用を通じたクラスターの形成が強く意識されており、具体的に検討された地域資源の活用や産業振興の内容に照らして大きな地域波及効果が期待できる。 ・真庭バイオマス産業杜市推進協議会を最高意思決定機関として設置し、推進役を担う推進本部と各プロジェクト、外部専門家が有機的に連携する官民連携の仕組みが構築されている。
<p style="text-align: center;">にしあわくらそん 岡山県西粟倉村</p> <p>〔人口 0.15万人 面積 0.6万ha〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「百年の森林事業」（平成20年度から実施）に基づく森林整備（川上）と流通管理（川下）の一元管理の下、未利用材などの森林バイオマスの熱利用を基軸に小水力・太陽光発電と組み合わせ、エネルギー自給100%の地域づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に長い取組の成果としての「百年の森林構想」に基づき、社会的企業等の多様な主体の関与により、ソフトを中心とした先駆的な取組は小規模中山間地域のモデルとなり得る。 ・新たな観点から木質バイオマスを利用する取組であり、今後、模範となるような事業展開に期待。

バイオマス産業都市の選定地域

(参考1)

一次選定地域 8地域
(H25.6月)

二次選定地域 8地域
(H26.3月)

北海道下川町

- ・木質地域熱利用・発電
- ・ヤナギ・ススキ利用

北海道興部町

- ・バイオガス発電
(家畜排せつ物、食品・水産系廃棄物)
- ・木質バイオマス発電(林地残材)

北海道十勝地域(19市町村)

- ・バイオガス発電・熱利用(家畜排せつ物等)
- ・木質熱利用・発電、BDF

北海道別海町

- ・バイオガス発電・熱利用
(家畜排せつ物、水産廃棄物等)

北海道釧路市

- ・バイオガス発電・熱利用
(家畜排せつ物、食品・水産系廃棄物)
- ・木質バイオマス発電、ペレット(林地残材等)
- ・バイオディーゼル(廃食用油)

岡山県西粟倉村

- ・木質バイオマス熱利用
(林地残材等)

新潟県新潟市

- ・バイオガス発電・熱利用
(下水汚泥、食品残さ等)
- ・木質ペレット、バイオディーゼル

岡山県真庭市

- ・木質バイオマス発電(林地残材等)
- ・バイオディーゼル(廃食用油等)
- ・堆肥化(食品廃棄物等)

宮城県南三陸町

- ・バイオガス発電・熱利用
(食品廃棄物、下水汚泥)
- ・木質ペレット(林地残材等)

島根県奥出雲町

- ・木質ペレット、炭材
(林地残材等)

宮城県東松島市

- ・バイオガス発電・熱利用(食品残渣等)
- ・木質発電

香川県三豊市

- ・堆肥化・固形燃料化(食品残渣等)
- ・竹資源利用

三重県津市

- ・木質バイオマス発電・熱利用
(林地残材等)
- ・バイオガス発電・熱利用、固形燃料化
(有機性汚泥・食品廃棄物)
- ・固形燃料化(間伐材、下水汚泥等)

愛知県大府市

- ・バイオガス発電・熱利用
(食品廃棄物、し尿等)

茨城県牛久市

- ・広域連携バイオディーゼル
- ・生ごみ堆肥化、木質

静岡県浜松市

- ・木質バイオマス発電・熱利用
(間伐材等)
- ・バイオガス発電
(食品廃棄物、下水汚泥)

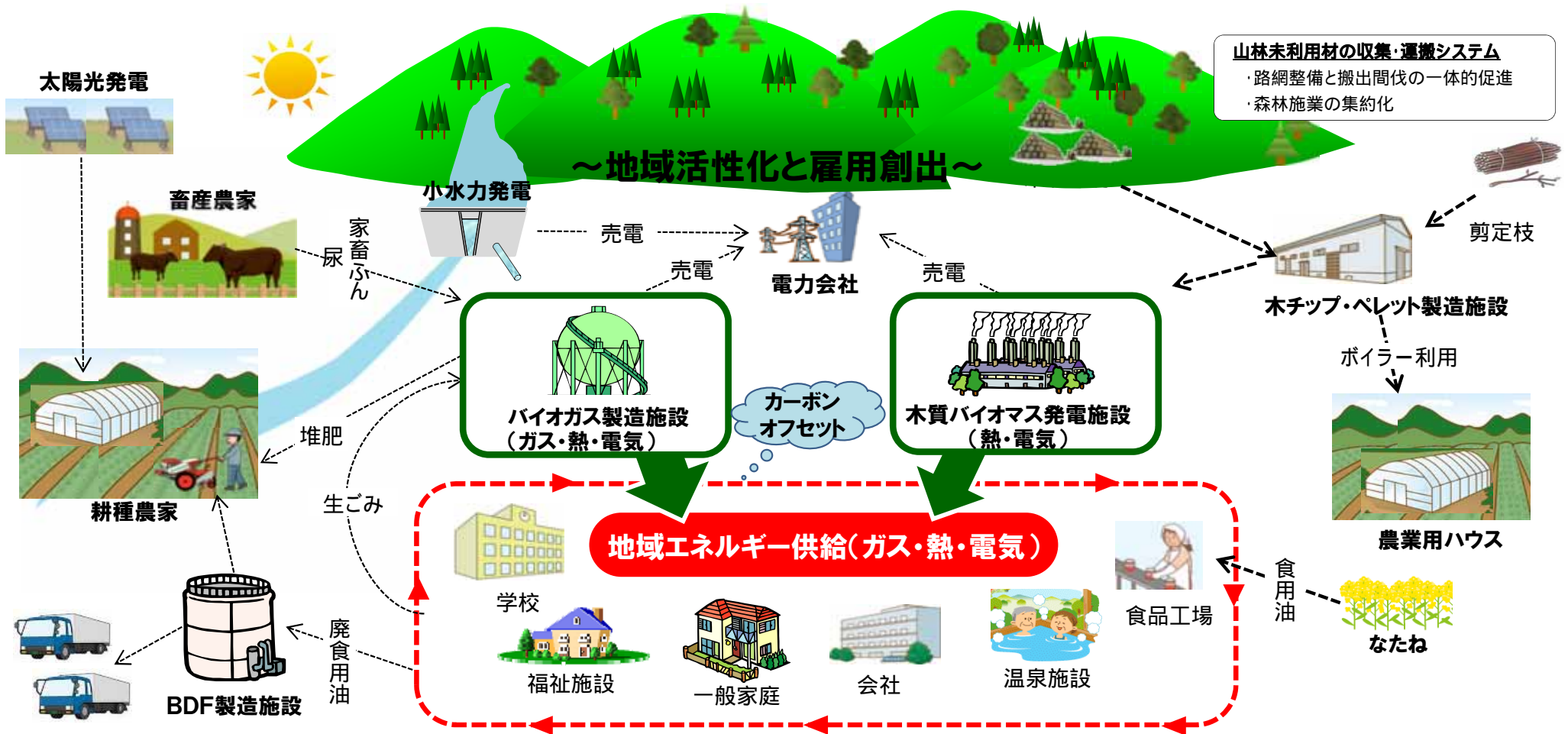
バイオマス産業都市について

(参考2)

バイオマス産業都市とは、経済性が確保された一貫システムを構築し、地域の特色を活かしたバイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強いまち・むらづくりを目指す地域。

今後5年間に約100地区(各都道府県に2地区程度)のバイオマス産業都市の構築を目指し、関係府省が共同で地域を選定し連携して支援。

関係府省:内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省



地域のバイオマスを活用した産業創出と地域循環型エネルギーの強化